

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	(和文)	ブラジル農業拓植協同組合中央会				
	(欧文)	Cooperativa Central Agricola e de Colonizacao do Brasil				
設立目的	加盟組合のために、植民地造成を目的とする国内移住、入国移住にかかわる業務を執行するとともに、農業の社会的経済的利益を擁護する業務を助長することにある。					
設立年月日	1957年 10月 27日	法人格取得年月日	1975年 7月 14日			
代表者	職名	会長	任期	98年 4月～02年 3月		
	氏名(和文)	溝口 茂雄				
	// (欧文)	Shigeo Mizoguchi				
役員構成	会長 1名、副会長 1名、専務理事 1名、正審議会委員 7名(会長、副会長、専務理事を含む)、補充審議委員会 5名、正監事 3名、補充監事 3名					
本部所在地	Av. Paulista, 37, Conj. 11, 1° and., Paraiso, Sao Paulo, SP, 01311-902, Brasil					
連絡先	郵便物宛先	Av. Paulista 37, Conj.11, 1° and., Paraiso, Sao Paulo, SP, 01311-902, Brasil				
	電話番号	011-284-6430	(団体・個人宅[])			
	FAX番号	011-284-3183	(団体・個人宅[])			
	E-mailアドレス	(団体・個人宅[])				
会員数	個人会員	世帯 361名		地域内日系家庭全体に対する加入率: 約 ____ %		
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		354人(98.06%)	7人(1.94%)	__人(____%)	__人(____%)	__人(____%)
法人、団体会員	33法人(団体)主な法人(団体)名: コチア、南伯組合、その他日系農協及び農業関係法人					
会員資格等	会員資格	<ul style="list-style-type: none"> ・日系人のみ ・農業従事者 ・農業協同組合又は農業関係法人であること 				
	入会金	年間108.08米ドル相当額(換算レート: US\$1=現地通貨 R\$ 1.2028)				
	会員の特典	自立援助事業の対象となる(戦後移住者のみ) 日本人農業移住者の導入				
使用言語	<ul style="list-style-type: none"> ・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等) 両方(日本語を主体とし、補足的にポルトガル語を用いる) 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等) 現地語、日本語の両方 					
定期出版物	タイトル	農拓協 会報				
	発行部数	2,000				
	言語	日本語、ポルトガル語				
	価格(有料の場合)	無料				

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
		総務部 (会長、専務理事及び職員3名)	4
	業務委託費 法務関係 (顧問弁護士 一年契約) 兼副会長		1
	経理関係 (会計士 一年契約)		1
	農業指導関係 (農業技師 臨時契約)		1
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	なし		

(2) 団体組織機構 (部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
なし		

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
なし	

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年 1月 1日～97年 12月 31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
土地使用料	17,769.86	一般業務	
機械等使用料	14,423.43	人件費 (保険, 会議費等)	37,402.73
違約金及び延滞利息	8,636.45	公租、公課	1,692.92
V.M.	729.09	銀行経費	1,431.56
農拓協基金より	292,228.74	管理費	7,709.42
(助成金、委託費及び 運用益)		プロジェクト I	
		人件費 (給料等)	113,331.93
		管理費	6,160.41
		会報経費	4,675.32
		指導費	689.37
		開発青年相談・指導	64.49
		情報収集費	323.16
		プロジェクト II	
		人件費 (給料等)	94,904.32
		管理費	56,991.51
		調査費	8,411.43
合計	333,787.57	合計	333,788.57

換算レート : US\$1 = 現地通貨R\$ 1.1165 (97年12月31日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	146,064.21	194,634.39	367,535.74	416,025.57	333,787.57
支出額 (実績)	146,064.21	194,634.39	312,951.07	348,438.88	333,787.57

4. 事業概要

(1) 事業内容

1. JICA—農拓協の委託業務（プロジェクトⅠ）
日本人農業移住者の安定、定着促進のための委託業務
2. 日本人農業移住希望者導入に関する永住査証許可取得手続業務
3. 雇用農等自立援助事業（プロジェクトⅡ）
JICAの助成金による雇用農等自立援助事業

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：雇用農等自立援助事業

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
農地貸与、売却 機械等貸与、売却	優先的対象者である最近の移住者の減少 事業制度自体の見直し	8年間の事業実績に基づく事業の見直し	JICAとの協議が必要であるが、資金使途及び対象者の拡大

2) 分野名：移住者導入業務

永住査証認可取得申請手続	移住希望者の希望就労地域作物に見合う引受先の斡旋がむずかしい	情報の提供あるいは現地視察の便宜をはかる移住希望者と引受先との調整	永住査証認可取得申請窓口の維持
--------------	--------------------------------	-----------------------------------	-----------------

3) 分野名：農業振興と普及

会報の発行 営農講習会 日本語農業技術月刊誌の回覧	会報内容増と充実 農業移住者の実態把握 資金不足 日系農業技師の登録	JICAとの業務委託	日系農業者の社会・経済的安定促進
---------------------------------	---	------------	------------------

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
なし		

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

なし

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	日本人農業移住者永住査証認可取得は日伯両国政府の合意に基づき、農拓協は申請手続団体として指名されており、又、ブラジリア労働省SIMIG（移民局）に登録されている。
地方自治体との関係	なし
地域住民・民間団体との関係	コチア、南伯両中央会解散後も引続き各単協との関係は維持されており、協力を得ている。又、県人会及び日系団体には雇用農等自立援助事業への募集に協力を願っている。

(3) JICAへの要望・期待

日系農家実態調査を要望する。

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	(和文)	パラナ日伯文化連合会				
	(欧文)	Alianca Cultural Brasil-Japao do Parana				
設立目的	1) 会員（団体）相互の親睦を図る 2) 慈善、文化事業等を行なう 3) 日伯間の交流関係に寄与 4) 医療事業を行ない会員の健康管理を行なう 5) 日系団体の社会的地位の向上を図り、地域社会に貢献 6) 福祉、教育事業を行ない、各種セミナー、コンクールを主催					
設立年月日	1968年 8月 17日	法人格取得年月日	1968年 11月 26日			
代表者	職名	会長		任期	98年 1月～99年 12月	
	氏名(和文)	嶋田 巧				
	// (欧文)	Takumi Shimada				
役員構成	評議員長 1名、副評議員長 2名、顧問 15名、相談役 9名、名誉会長 1名、会長 1名 副会長 15名、総務 1名、書記 2名、会計 3名、各部内幹事 36名、監査役 3名、 監査補 3名、農業センター主任 1名、移民資料館館長 1名 JICA委託業務巡回診療責任者 1名、事務局長 1名 (JICA委託業務事務局長兼任)					
本部所在地	Rua Paranagua, 1782, Londrina, PR, 86015-030, Brasil,					
連絡先	郵便物宛先	Rua Paranagua 1782, Londrina, PR, 86015-030, Brasil				
	電話番号	043-324-6418(モデル校) 324-4967(事務局) (団体) 個人宅[]				
	FAX番号	043-322-6770 (団体) 個人宅[]				
	E-mailアドレス	alialon@sercomtel.com.br (団体) 個人宅[]				
	会員数	個人会員	10,584世帯42,336名 (団体) 地域内日系家庭全体に対する加入率：約44%			
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		__人(__%)	__人(__%)	__人(__%)	__人(__%)	__人(__%)
	法人、団体会員	71法人(団体) 主な法人(団体)名：クリチーバ日伯文化援護協会				
会員資格等	会員資格	1.パラナ州に所在する日系法人団体であること 2.人種、社会的地位、宗教、政治的イデオロギーを差別しない				
	会費	1団体平均年間 34米ドル相当額(換算レート：US\$1=現地通貨 R\$ 1.21)				
	会員の特典	特になし				
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等) 日本語70%、現地語(ポルトガル語)30%の両方 ・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等) 日本語、現地語両方					
定期出版物	タイトル	アリアンサ便、パラナ日伯文化連合会会報				
	発行部数	300				
	言語	日本語、ポルトガル語				
	価格(有料の場合)					

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	総務部	1	
	経理部	1	
	日本語学校(モデル校)	1	
	JICA委託業務	1	2
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	1.パラナ移民資料館	1	
	2.ローランジア農業センター	1	
	3.パラナ教育センター日本語モデル校	1	

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
法務部	各種の法的手続を行なう	4
国際交流部	研修員の受入れ、送出しに協力	7
教育部	パラナ州の日本語教育の普及と向上に努め、研修会、行事を開催	6
文化部	展示会を企画し日本文化紹介に努める。日系団体に関するシンポジウム開催	4
演芸歌謡部	芸能祭、コンクールを企画。パラナ日系人の交流、親睦を図ると共に若い人達へ継承	5
衛生部	JICA委託業務、巡回診療、衛生講話を実施。団体会員の健康管理を図る	医師37 主任 1
福祉部	高齢者研修会、講習会と企画、パラナ各地の人々との親睦交流を図る	2
ゲート・ボール部	高齢者の健康維持スポーツとして各種の大会を企画 (パラナのゲートボール人口=600余人)	11

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
パラナ移民資料館	来訪者に随時開館。年間参観者は約950人
ローランジア 農業センター	農業振興セミナー開催。各種農業組合関係の会議。パラナ州日系人の大きな集まりなどに利用されている。(日本移民80周年、90周年など)
パラナ日本語センター モデル校	常時、日本語の授業に利用 講堂：教育文化活動の集まり、弁論大会、お話大会、児童作品コンクール、展示会などに利用 宿泊所：(7室)日本語教師研修会、その他に利用
図書室	国際交流基金、兵庫県国際交流課、河野洋平元外務大臣からご寄贈を受けた書籍を一般に貸出したり、読者に常時利用できるようにしている。

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年 1月 1日~97年 12月 31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
1)前年度繰越金	51,850.51		
2)会費収入	15,324.69	1)本部管理運営支出	38,559.26
3)日本語学校収入	18,199.65	2)日本語学校支出	29,392.95
4)その他の収入			
寄付収入	22,723.61		
福引券収入	21,233.24		
5)農業センター収入	16,665.39	3)農業センター管理運営支出	16,964.66
6)ゲートボール収入	6,351.30	4)ゲートボール関係支出	3,044.84
7)雑収入	2,091.30	5)雑費支出	933.40
8)銀行預金利息	1,339.50		
9)JICA委託金	25,013.37	6)JICA委託業務支出	26,847.61
		7)次年度繰越金	65,049.84
合計	180,792.56	合計	180,792.56

換算レート：US\$1=現地通貨 R\$1.15 (97年 1月 5日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	413,627.13	123,991.20	265,539.36	103,229.36	128,870.05
支出額(実績)	249,922.33	90,871.67	148,164.86	155,550.76	115,742.72

4. 事業概要

(1) 事業内容

1) 自治活動（パラナ州域内の行事、JICA委託金関連業務〈巡回診療・高齢者福祉活動〉） 2) パラナ教育センター日本語学校モデル校運営 3) パラナ州内日本語教師の実力アップと養成 4) パラナ移民資料館とローランジア農業センターの管理運営 5) 在クリチバ日本国総領事館の業務に協力 6) パラナ州在住日系人に必要に応じて便宜を図る

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：医療衛生

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
本会の支部71団体の巡回診療の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、年間15団体ぐらゐの対応であるが、できれば増やしていきたい。 ・大都市の受診者の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会を設け、新年度から取り組む。 ・他の機関と情報交換、及び、健康に関するパンフレット作成、配布 ・医療衛生に関する講演会の回数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無医村地方に対する巡回地区を新たに増やす。 ・昨年5月末完了した本館の中に診療室があるのでこれを利用、健康相談高齢者無料検診などを目標に利用していきたい。

2) 分野名：日本語教育

1.日本語モデル校 2.パラナ日本語教師研修会 3.パラナ児童お話大会 4.日本語能力検定ロンドリーナ会場実施 5.日系研修員の募集と推薦 6.児童作品コンクール 7.日本語教師実力養成講座（通信）	1.学習者が多様化してきているが、適当な教材が無い 2.児童の学習者の減少 3.現地に合った教材が不足 4.若手日本語教師の後継者の養成（本格的に） 5.日本語教師の日本語学力不足	1.教材開発グループの設定 2.幼児教育に力を入れ、非日系人にも積極的に日本語学習を奨める 3.日系シニア・ボランティアを中心に後継の日本語教師の育成に取り組む 4.実力アップを目的に通信講座を始めて5年になる	1.幼児教育の充実 2.各種の研修会を企画若手教師の育成 3.教材開発を活発にし地方の教師に配付し、学習の効果を上げる
---	--	--	---

3) 分野名：域内親睦

年間の行事を通じ、パラナ州在住の日系人の親睦を深め、交流を図っている 1.若人の集い、婦人の集い、高齢者の集い開催 2.芸能祭、盆踊り、アマチュアカラオケ大会開催 3.ゲート・ボール大会開催 4.セミナー・シンポジウム開催	どの催しも若手のリーダーが不足。若人の集いを除いて、他の行事には若い人達の参加が少ない	1.若い世代が興味をもって参加する催しを開発 2.71団体の支部に対し、若い人達の参加を呼びかける	パラナ州の日系人が、各種の行事を通じ親交を深め、若人の集い、婦人の集い、高齢者の集いを大きな輪に広げ連帯を強めたい
---	---	--	---

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

なし

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	なし
地方自治体との関係	昨年度は、日本移民90周年記念の年で、本会の記念事業として、パラナ教育センターとパラナ日伯文化連合会本部の会館の完成に取組んだが、パラナ州政府に助成金を申請し、R\$200,000.00(米ドル173,913.04)認可され、昨年5月落成した。今後、非日系団体にも会場を提供、地域住民の文化的生活の向上に役立てていきたいと望んでいる。
地域住民・民間団体との関係	なし

(3) JICAへの要望・期待

特になし

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	南日伯援護協会					
	(欧文) Associacao de Assistencia Nipo Brasileira do Sul					
設立目的	会員相互の親睦を図り、利益を目的としない民事団体として、会員の生活指導及び日系ブラジル人の定着に協力し、ブラジル国の善良なる公民となる様、福祉、保健衛生及び教育文化等の諸事業を実施し、国の発展向上に協力する事を目的とする。					
設立年月日	1969年 10月 11日	法人格取得年月日	1971年 3月 17日			
代表者	職名	会長		任期	98年 1月～98年12月	
	氏名(和文)	長谷川 光治				
	// (欧文)	Koji Hasegawa				
役員構成	会長 1名、副会長 3名、理事 19名、監事 6名、事務局長 1名、評議員 19名 運営委員長 6名、日本語学校長 1名、相談役 6名					
本部所在地	Av. Jaime Vignoli 235, Bairro Anchita, Porto Alegre, RS, 90200-100, Brasil					
連絡先	郵便物宛先	Av. Jaime Vignoli 235, Bairro Anchita, Porto Alegre, RS, 90200-100, Brasil				
	電話番号	051-371-3535	(団体) 個人宅[]			
	FAX番号	051-371-1788	(団体) 個人宅[]			
	E-mailアドレス	enkyosul@conex.com.br	(団体) 個人宅[]			
会員数	個人会員	世帯 406名		地域内日系家庭全体に対する加入率: 約 70%		
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		360人(89%)	39人(9.6%)	6人(1.3%)	人()%	1人()%
法人、団体会員	法人(団体) 主な法人(団体)名:					
会員資格等	会員資格	・本会は国籍、人種、宗教等の差別なく、その目的に協力を希望し、役員会により会員と認められ、リオ・グランデ・ド・スール、サンタカリーナの両州に在住する自然人及び法人をもって構成し、会員数の制限はない。				
	会費	年間 80米ドル相当額(換算レート: US\$1=現地通貨 R\$ 1.20)				
	会員の特典	機関紙、巡回診療、鍼灸等の無料サービス、歯科治療、日本語学校、学生寮費等の割引				
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等)					
	日本語を主体とし、現地語(ポルトガル語)の併用もある					
	・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等)					
	日本語、ポルトガル語の両方					
定期出版物	タイトル	援協ニュース				
	発行部数	500				
	言語	日本語、ポルトガル語				
	価格(有料の場合)					

2. 事業実施体制

(1) 本部および附属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	新聞、広報担当	1	
	一般経理担当	1	
	委託業務、組織担当	1	
附属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	学生寮	1	
	歯科診療所	2	
	日本語学校	4	
	運動場	1	1

(2) 団体組織機構（部局、部会、委員会等）

団体組織機構名	業務概要	人員体制
役員会（理事会）	会の運営管理、会費の決定、収支決算、事業計画予算案、定例役員会	23
監事会	総会で選出、正監事3名補充監事3名で構成。3ヶ月毎会の事業財政状態の監査	6
評議員会	役員会、監事会事務局と会員間の諸連絡、会費徴収及び援護申請等	21
奨学資金管理運営委員会	日系社会の発展に寄与しうる有為の人材の確保、育成	4
日本語学校運営委員会	学校経営管理及び教育、教材開発、教師の育成	10
学生寮運営委員会	学生寮自治会との対話によって諸問題の解決及び支援活動	3
歌謡運営委員会	文化活動を通じて会員の親睦と交流を図る	8
野球ソフト運営委員会	スポーツを通じて次世代青少年の健全な心身の発育等を期す	22
相撲運営委員会	全伯大会、南米選手権大会、世界選手権大会等へ出場し入賞の実績がある	5

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
学生寮	在寮生 12名 料理講習会、老人クラブ
事務所	常時職員が居り、事務遂行の為に利用
歯科診療所	週3回 9:30～17:30 平均1日当り5名の利用
日本語学校	週5日 平均1日当り4時間 児童数 64名
運動場	常時開放（運動会、相撲、野球、ソフトボール、ゲートボール）
会議室	役員会他会員の各種集会、講演会等に利用
巡回診療車	担当医師の夏期休暇を利用し、傘下2州にわたり実施 延約4,700km行程

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年 1月 1日～97年12月31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
1) 前年度繰越金	32,557.68	1) 一般管理費	37,117.40
2) 会費収入	21,603.62	2) 人件費	18,950.49
3) 事業収入	8,492.47	3) JICA委託業務費	21,842.52
4) 寄付その他	6,629.16	4) 日本語学校	38,715.40
5) JICA委託業務費	23,271.91	5) 奨学育英資金	3,614.19
6) 日本語学校	55,240.46	6) 学生寮	22,606.29
7) 奨学育英資金	61,522.92	7) 運営委員会	15,261.98
8) 学生寮	26,558.61	8) 次年度繰越金	102,268.19
9) 運営委員会	21,737.71		
10) 資金運用益	2,761.92		
合計	260,376.46	合計	260,376.46

換算レート：US\$1=現地通貨 R\$ 1.1156 (97年12月31日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	271,444.47	237,625.88	258,062.88	235,793.99	260,376.49
支出額(実績)	52,964.40	152,282.78	177,344.94	149,041.16	158,108.30

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・自治活動（域内親睦、JICA委託業務） ・日本語学校運営 ・奨学育英資金管理運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生寮運営 ・歯科診療所運営
---	--

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：日本語教育

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
日本語学校の運営 日本語教師研修会の開催 日本語能力試験の実施 日本語教師本邦研修の募集 選考	学校運営上、非日系児童の受入が必要である。 若手教師の不足。 待遇改善の不備で退職教師の補充が未完である。 教師育成が不可欠。	学校運営委員会によって本格的な取り組みが決議された。人員育成に具体的な計画が設定された。 第三機関との交流を広げ情報交換を図る。	日本語教育の位置付け 日系社会、地域社会に対するコンセンサス。 日系青年ボランティア、シニア専門家等の協力を得て人材の育成、教材の開発、教師の待遇改善。日本語教育の活性化。

2) 分野名：域内親睦

年中行事のとしての運動会 相撲、野球、ソフトボール 敬老演芸会、料理講習会等の実施	本邦就労による青年層の不在、不参加が日系社会の空洞化につながり、活動の低調が顕著である。可能なかぎり参加できるような対応とそれに見合った行事、活動が今後の課題である。	一世、二世、非日系人を問わず全ての会員の参加を目標に企画を再考し、新規行事を取り入れ興味の持てる催事を計画実施する。	会員の親睦と相互扶助の連帯感を強化推進する。
---	---	--	------------------------

3) 分野名：国際交流

滋賀県との交流（姉妹州・県）	常駐の国際課の職員との連携による広報活動や訪日研修員グループ（非日系人）の滋賀協会の活動にも限度がある。協会としてのメリットも考察している。市営滋賀公園も管理運営面で問題がある。	当州リオ・グランデ・ド・スールと姉妹関係にある滋賀県より毎年親善使節団派遣と、当州から訪日研修員等の活発な交流があり、会員子弟の招聘もあるので当協会も便宜供与等に参加協力し、国際交流の一環を期している。	今後は当地での問題点である教育、文化、医療衛生、老人福祉技術、産業等全ての面での交流を深め、人材の養成、指導を含めた総合的な情報交換、人的交流を計画し、成果の期待出来るものに発展したい。
----------------	---	---	---

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
特別養護老人ホーム	建設実行委員会が発足し、建設用地の選定、建設規模、建築設計図面、運営要領、資金計画等の審議がなされ助成金申請に要する手続の検討がなされている。	当面の問題である協会の財政基盤の確立は、日系社会の経済力強化が急務であり、不況化にあって産業生産活動面での活性化を推進し、運営費の捻出に支障のない体質作りと、先進施設の視察、見学現場体験等を活用するだけの体制造りに邁進努力しホーム運営に当たりたい。

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

隣国ウルグアイの日系人協会と相互に視察や招待等による交流が頻繁にあり、密接な情報交換を行っている。

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	福祉団体としての許可の取得は、社会福祉省からのものと、伯国教育審議会を通じてのものがあり、医療、衛生、老人福祉、健康管理、教育文化等の各種活動においてかなりの評価を受けている。連邦政府、州政府に対し予算要求権や国税免除の恩典が認められている。公益団体の経理及び事業報告を通じて、助言指導があり、各種情報提供等の便宜を受けている。現時点においては特に問題ない。
地方自治体との関係	当協会傘下の地方都市における日系人団体はいずれも常に密接な関係を維持し、且つ友好的な交流がなされている。協会所有の運動場への道路の整備、橋の補修に始まり、ゲートボール場建設に際しては整地はもとより、用土の搬入や機械の提供を受けた。又、協会主催の行事には頻繁に市長の来席があり、地方ベースの関係は親密であり、地域社会との交流を通じて大きく貢献している。
地域住民・民間団体との関係	当協会が運営する歯科診療所の利用者は地域の非日系人が約7割を占めている。又、日本語普及センター、ポルトアレグレ・モデル校生徒数64名の12%は非日系人子弟である。年1回市役所主催の各国移民による万国祭には、日本商工会議所、日系クラブ等と連携参加し、日本品、日本食の出品出店等を実施している。又、総領事館主催の日本週間、日本映画祭等の広報活動に参加協賛している。

(3) JICAへの要望・期待

巡回診療事業において医師、助手に対する謝金の予算がなく、伯国人、日系二世医師の場合ボランティア活動というものの、当国労働法に抵触する問題等が提起される可能性もあり、当協会では一般会計からの支出を余儀なくしているが、経済不況下にあつて会員の減少、会費の未収増加等から、今後の巡回診療事業の在り方に大きな懸念が持たれている現在、充分な対応策の検討をお願いしたい。又、日本語学校教師の待遇改善の方途と本邦研修制度の支援継続を期待したい。



歯科診療室



巡回診療車

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	モジダスクルーゼス文化協会				
	(欧文) "Bunkyo" Associacao Cultural de Mogi das Cruzes				
設立目的	1.地域社会の親睦を図る。 2.日本文化の伝承と普及。 3.共済及び慈善活動と福祉の増進。 4.日伯間の友好親善の促進。 5.各種スポーツによる会員の健康と体育の向上を図る。				
設立年月日	1938 年 5月 20 日	法人格取得年月日	1959年 11月 18日		
代表者	職名	理事長	任期	99年 2月～ 00年 1月	
	氏名(和文)	山本 治彦			
	// (欧文)	Haruhiko Yamamoto			
役員構成	[評議会]: 会長 1名、副会長 2名、書記 2名 [理事会]: 相談役 3名、理事長 1名、副理事長 4名、書記 4名、会計 3名、各部担当理事 20名、地方代表理事 16名、事務局長 1名 [監事会]: 正監事 3名、補充監事 3名 [学生寮]: 寮長 1名、運営委員長 1名、委員 9名 [モデル校]: 校長 1名、運営委員長 1名、委員 10名 [総合運動場]: 運営委員長 1名、委員 18名				
本部所在地	Rua Presidente Campos Salles 230, Vila Industrial, Mogi das Cruzes, SP, 08770-210, Brasil				
連絡先	郵便物宛先	Rua Presidente Campos Salles, 230 Vila Industrial, Mogi das Cruzes, SP 08770-210, Brasil			
	電話番号	011-460-2022/2969	(団体)	個人宅[])
	FAX番号	011-460-2267	(団体)	個人宅[])
	E-mailアドレス	(団体・個人宅[])			
会員数	個人会員	1,200 世帯 4,800 名 地域内日系家庭全体に対する加入率: 約 14 %			
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降
		480 人(10%)	3,840 人(80%)	330 人(7%)	150 人(3%)
法人、団体会員	__ 16 法人(団体) 主な法人(団体)名:				
会員資格等	会員資格	・ 18歳以上の男女 ・ 品行方正にして過去に不正行為のない者 ・ 日系非日系を問わず			
	会費	年間 29.50 米ドル相当額(換算レート: US\$1=現地通貨 R\$1,18)			
	会員の特典	文化協会所有施設及び総合運動場、学生寮、日本語モデル校の利用。 文化協会関連行事の自由参加。モデル校入学に際して奨励金の授与。			
使用言語	・ 総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等) 主に日本語(必要に応じてポルトガル語)				
	・ 団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等) 日本語とポルトガル語の両方				
定期出版物	タイトル				
	発行部数				
	言語				
	価格(有料の場合)				

2. 事業実施体制

(1) 本部および附属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	事務局		2
附属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	総合運動場	5	
	学生寮	1	
	日本語モデル校	5	

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
総合運動場運営委員会	体育館、プール、陸上競技場、野球場、ゲートボール場、相撲場、お祭り 広場等の運営と営繕、新施設の計画と設備維持。	18
学生寮運営委員会	高校生、大学生の宿泊の誘致と寮内の設備と営繕。	9
日本語モデル校運営委員会	日本語モデル校の経営と学校の管理。	18
日本語モデル校教員会	日本語モデル校の校務と教育課程の推進。	9

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
事務局	常時職員が勤務。各種事務の処理と対外的問題の対応、会員相互への連絡、相談事の 処理。
会館	会員及び地域社会の各団体が各種集会に利用。講演会、講習会、舞踊、カラオケ、 社交ダンス等に毎日利用。その他、老人部、青年部、婦人部の集会等に利用。
学生寮	高校生、大学生が50名宿泊、学校に通学している。
日本語モデル校	週5日間の授業2クラス3部制で児童数は50名。成人の部は夜学2部・土曜2部制で13名。

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1998 年度収支計算書 (98年 1月 1日～ 98年 12月 31日) (US\$)

歳入の部		歳出の部	
前期繰越金	8,474.75	職員及び雇員給料	40,398.46
会費収入	3,557.70	学生寮及び会館管理費	11,060.14
JICA助成金	169,685.00	日本語モデル校建設費	119,638.00
各種寄付及び協力金	195,168.86	日本語モデル校教材備品購入	50,047.00
学生寮月謝収入	60,206.38	教員厚生基金	5,428.00
秋祭り収入	53,935.67	秋祭り支出	28,802.89
会館使用料	4,106.40	移民90周年記念祭	7,316.40
		電話料金	2,690.00
		水道及び光熱費	21,026.85
		交際費	2,404.84
		各種寄付協力費	12,300.00
		広報費	6,500.00
		家屋税	16,520.00
		各部補助金	11,210.00
		冠婚葬祭費	10,800.00
		微細項目経費及び雑費	140,688.04
		次年度繰越金	8,304.14
合計	495,134.76	合計	495,134.76

換算レート：US\$1=現地通貨 R\$1.18 (98年 12月 日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1994	1995	1995	1996	1997
予算額					
支出額(実績)	213,269.97	728,749.87	324,247.85	231,988.00	495,134.76

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・自治活動、地域内での行事の遂行、対外的交渉、JICA助成事業 ・各地区日本文化との関連行事、市及び市議会、姉妹都市との行事 ・日本語モデル校の経営 ・学生寮の経営 ・総合運動場の運営
--

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：日本語教育

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
日本語モデル校の経営 日本語教育研究会の存在 (モジ文協付属の外部団体)	地域全般に日本文化伝播と本格的な日本語普及に学校経営、非日系人への日本語普及課程における教師の不足。 後輩の養成、指導のための日本語教師の充実、2世3世の日本語教師をいかに養成するかということ。	日本語教育研究会とタイアップしてシニア専門家の指導に基づいて次世代の日本語普及に取組む。	日本語並びに日本文化の伝承、普及に取組んで人材の育成のための充実したモデル校を運営して日系社会に日本語学校の浸透を図り非日系人の日本語への興味と認識を深め日本文化の体験を勧める。

2) 分野名：福祉事業

福祉団体への協力を援助	福祉部の強化と実績の集積を図る。	各日本人会に呼びかけて福祉団体に衣料、食料、日用品等を送る。 市の年末助け合い運動に参加する。	福祉団体への協力、援助の継続。
-------------	------------------	--	-----------------

3) 分野名：地域社会

年中行事 移民の日 野外ミサ 日伯援護協会巡回診療 モジ文協秋祭り 慰霊祭と敬老会 年末表彰と慰労会	各地区日本人会に積極的な参加の呼びかけ。 若い世代の参加を要請する誘致条件の再検討。	2世3世に理解され興味を感じて積極的に参加出来るような体制の行事を企画する また、既定の行事もその様にする。	各行事を通じて日本文化の伝承普及に努める。各日系社会、地域社会との連携の強化。 若い世代に文化協会の存続価値の再認識をしてもらう
---	---	---	---

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
なし		

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

・日本国2市と姉妹都市提携をしているが、モジ文協理事長が姉妹都市委員長を務めて交流の橋渡し、友好親善訪問団の接待、姉妹都市間の各種交流の斡旋に携っている。

・日本への留学生、研修生の紹介と斡旋、姉妹都市の他母国訪問に際しての団体、学校訪問に関して紹介、斡旋取り次ぎ業務。

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	なし
地方自治体との関係	市役所及び市議会と密接な交友関係を維持し、市及び市議会の各種行事に参加。 モジ文協主催の秋祭り（毎年開催）をモジ市年間行事として市のプログラムに組み入れ、市の援助を受けている。
地域住民・民間団体との関係	毎年2回日伯援護協会の巡回診療班を招聘して一般に公開、地域住民の健康の保全に寄与している。 地域の福祉団体、慈善団体に年間を通じて数回にわたり食料品、日用品を供給している。 各種サナトリウム、養老院等に月1回、野菜果物の供給を行っている。

(3) JICAへの要望・期待

JICAの業務内容を一般に対して報告のような形（会報のようなもの）で公表してほしい。

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	事務局(園長・事務員)		2
	社会福祉	1	
	寮母	4	1
	用務員	1	
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	なし		

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
なし		

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
和順ホーム	現在、身寄りのない老人が35名入居中

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年 1月 1日～97年12月31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
1: 年会費収入	85,974.00	1: 和順ホーム支出	
2: 特別行事収益金	7,050.00	食費	9,200.00
3: 寄付	5,930.00	医療費	4,780.00
4: 賛助会費	20,895.00	特別行事費	4,141.00
邦人扶養費		雑費	5,988.00
5: 建築助成金(JICA)	135,025.00	2: 和順会事務所支出	
建築寄付金国内	31,379.00	給料、保険	31,118.00
6: 銀行利子	12,484.00	銀行手数料	4,456.00
銀行払い戻し金	158.00	出張費	3,380.00
		税務所手数料	68.00
		修理費	322.00
		諸雑費	19,822.00
		3: 増築工事費	212,720.00
		次期繰越金	2,900.00
合計	298,895.00	合計	298,895.00

換算レート: US\$1=現地通貨 R\$ 1.16 (98年12月23日現在)

(2) 過去5年の財政状況 (*1993、1994年度はインフレのため換算不可能) (US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	—	—	95,555.55	107,272.72	156,020.00
支出額(実績)	—	—	151,657.16	137,833.65	295,995.00

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉施設和順ホーム運営 ・在宅福祉事業 デイ・ケア、ショートステイなど ・地域福祉事業 地域行事参加、ボランティア受け入れ、老人福祉に関する講演、パナ老壮演芸大会開催(各地域65才以上の方々を中心とした演芸会を開催)

(2) 重点分野への取組(重要度が高い順に記載)

1) 分野名: 和順ホーム運営

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・国籍、宗教、人種の差別なく老人を無料で支援、養護し老人福祉向上に関する相談並びに指導を行っている ・貧困と孤老に苦しむ老人を受け入れ、入居老人の立場に立って物事を判断し、「明るく」「正しく」「仲良く」を基本としてホームの運営を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規入居者の基準枠を広げ、ホーム入居者の増員を図る ・明るいホームづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 「老人と共に」明るい生活「和に順ずる」和やかな思いやりある生活が続けられるよう努力している ・年間、月間行事(正月、たなばた、お墓参り、誕生会等)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進む日系コロニアに対する老人福祉に取り組み、その活動を地道に積み重ねていく。 入居老人の増加に対応出来る場所が出来たので、徐々に入居者を増加していきたい。

2) 分野名: 在宅福祉事業

<ul style="list-style-type: none"> ・デイ・ケア ・ショートステイ ・ミドルステイ 	<ul style="list-style-type: none"> 現存施設の一部を利用して行う予定だが、現状では利用者なし。具体的な活動内容や利用時間、費用の設定が明確でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早急に活動内容を各理事や担当職員とで決定する。 ・電話相談時などに対象者の状況を把握し、適切なサービスを考えると同時に、各サービスの情報を提供し、利用者増加に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイ・ケア、ショートステイ、ミドルステイのサービス促進と定着
---	---	---	---

3) 分野名: 地域福祉事業

<ul style="list-style-type: none"> ・地域催事への参加、ボランティアの受け入れ、老人福祉に関する講演、老壮演芸大会その他地域住民からのお年寄りの介護についての相談対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者との交流を目的としたボランティアの受け入れにより、地域社会との結びつきを深めるとともに、参加ボランティアの生きがいづくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・催事ボランティアのリスト作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の活動(ショッピングの付き添い、クラブ指導等)援助にボランティアの導入を企画、実施する。
--	---	---	--

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・会員の減少: 農業不振、日本への就労増加の影響で会員が減少し運営資金に支障をきたすおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 役職員が団結し、各支部をまわりひとりでも多くの会員を募る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各日系団体、非日系の団体に対し説明、呼びかけを行い、事業の理解を得て、時代の流れにそってできる形態での収入方法を見出す。

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

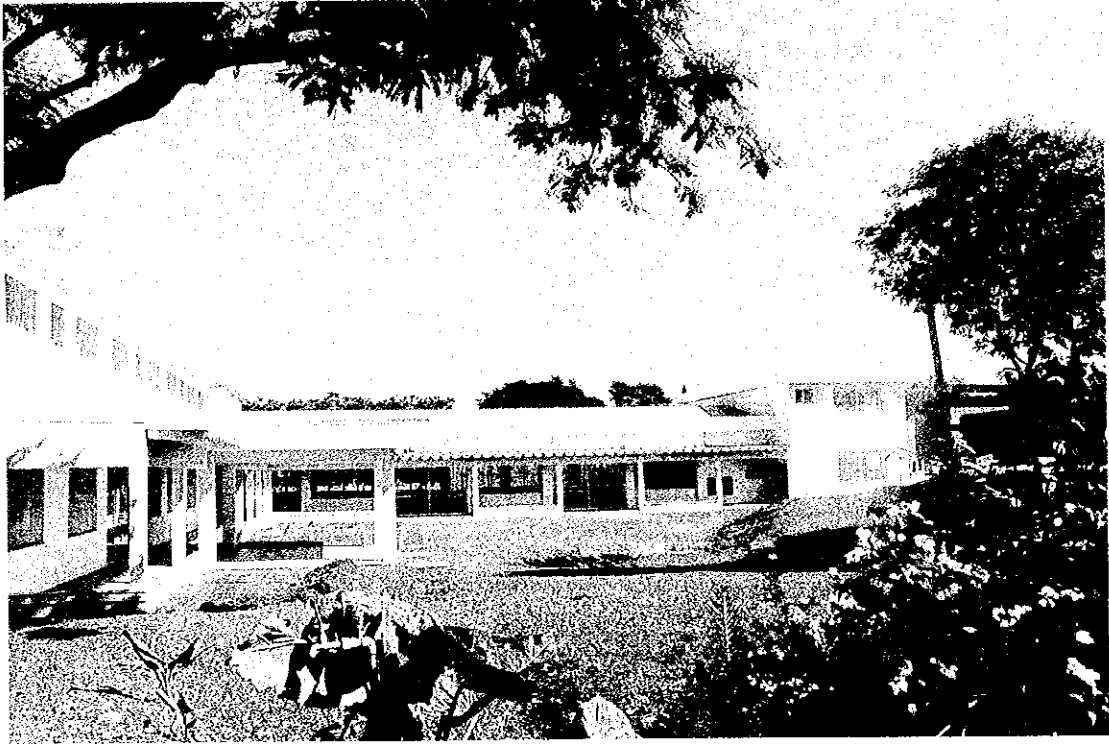
日本国鳥取県 社会福祉法人あすなる会 職員の交換研修
日本国千葉県 淑徳大学 学生の福祉研修

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

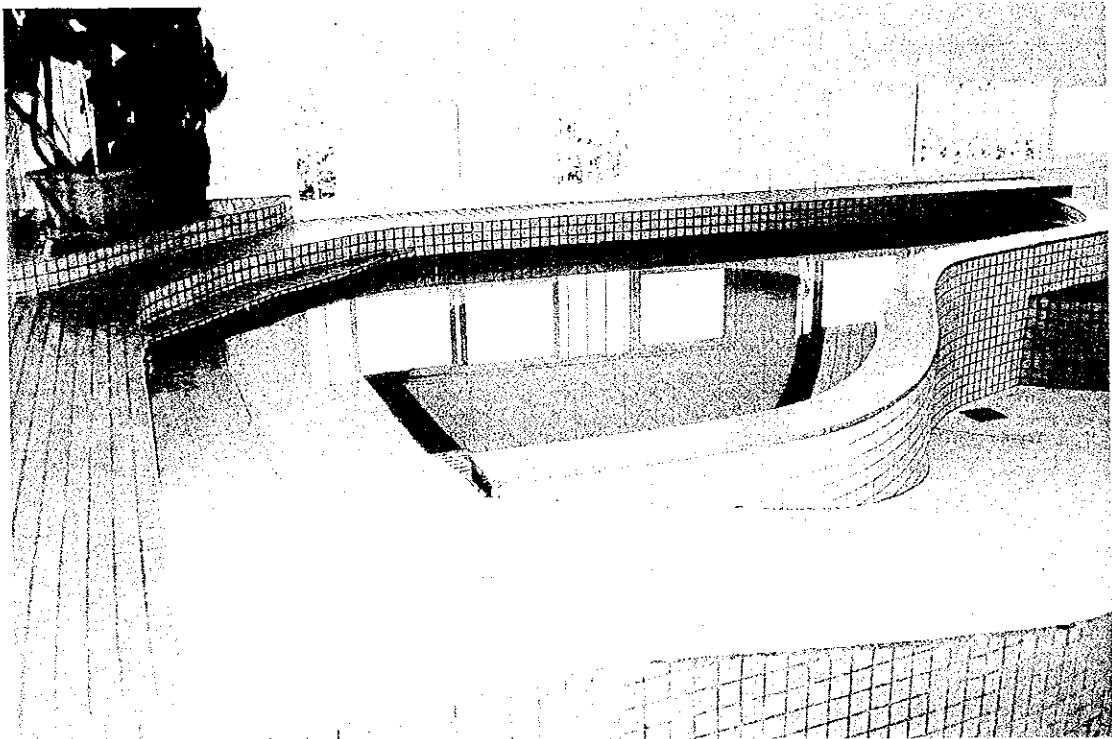
中央政府との関係	なし
地方自治体との関係	・ 市役所内にある福祉局と密接な関係をもち福祉に関する情報を交換する ・ 市役所福祉局が開催する行事に参加する ・ 路上駐車無料許可証有
地域住民・民間団体との関係	会主催の行事に無料奉仕 文化協会主催の催事に入居者が招待される 各団体の顧問を受け入れる

(3) JICAへの要望・期待

青年ボランティアの継続派遣を要望



旧棟より新棟を眺む



浴室（浴槽）

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	グアタバラ農事文化体育協会				
	(欧文) Associacao Agro Cultural e Esportiva de Guatapara				
設立目的	1.グアタバラ移住地の管理、運営。 2.会員の親睦と交流のため。 3.日本語教育を含む文化事業とスポーツ振興。 4.年中行事遂行。				
設立年月日	1968年 9月 23日		法人格取得年月日	1981年4月 日	
代表者	職名	会長		任期	98年 2月～ 99年 2月
	氏名(和文)	近藤 四郎			
	// (欧文)	Shiro Kondo			
役員構成	会長 1名、副会長 2名、総務委員 5名、財務委員 4名、大型機械委員 4名、水道委員 3名、教育委員 3名、農事部 4名、治安部 5名、堤外地開発委員 5名				
本部所在地	Nucleo Colonial Guatapara, Bairro Mombuca, Guatapara, SP, 14115-000, Brasil				
連絡先	郵便物宛先	Nucleo Colonial Guatapara , Bairro Mombuca, Guatapara, SP, 14115-000, Brasil			
	電話番号	016-673-0088	(団体) 個人宅[])		
	FAX番号	016-673-0065	(団体) 個人宅[])		
	E-mail以外	(団体・個人宅[])			
会員数	個人会員	113世帯 650 名 地域内日系家庭全体に対する加入率：約 99 %			
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降
		107人(94.7%)	6人(5.3%)	0人(0%)	0人(0%)
法人、団体会員	0 法人(団体) 主な法人(団体)名：				
会員資格等	会員資格	・地域内日系人 ・入植後、他地区に居住する人、次男三男で移住地外に居住する人でも希望する場合には準会員となる。(保険への加入、墓地、行事への招待)			
	会費	年間 20米ドル相当額(換算レート：US\$1=現地通貨 R\$1.20)			
	会員の特典				
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等) 主に日本語				
	・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等)				
定期出版物	タイトル	グアタバラ新聞			
	発行部数	150			
	言語	日本語			
	価格(有料の場合)				

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
		事務所	4
	土木、水道部	2	1
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	日本語学校		6

(2) 団体組織機構（部局、部会、委員会等）

団体組織機構名	業務概要	人員体制
青年部	親睦、年間行事主催（運動会、盆踊り、ビール祭り、紅白歌合戦、カーニバル）	130
婦人部	親睦、講習会、旅行、敬老会、接待	80
敬老会	親睦、老ク連とのつながり、市福祉課、第3世代との交流、誕生会、旅行	110
運動部	野球部(含、女子ソフトボール)、ゲートボール部、愛好会(バレーボール、水泳)	50
大型機械	利用と道路管理	
水道	5つの深井戸管理と水の配給（全村）	
財務	所有不動産の管理運用	
堤外地開発	モジグアス河畔の観光開発	

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
中央公民館	行事、カラオケ、集会
日語校舎	日本語授業
事務所	事務遂行、会議、集金、コピー利用
プール	無料開放（主に土、日曜日）
野球場	主に土、日曜日に練習、試合。2面あり
サッカー場	ブラジル人のチームに開放
ゲートボール場	3面あり。週3回の練習に利用

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1998 年度収支計算書 (98年 1月 1日～ 98年 12月 31日) (US\$)

歳入の部		歳出の部	
1.前年度繰越金	144,284.00	1.職員給料	54,720.00
2.会費収入	2,083.00	2.公租公課	9,831.00
3.水道利用料	82,207.00	3.農事部	9,321.00
4.大型機械利用料	31,102.00	4.深井戸管理費、建設費	105,967.00
5.日本語学校月謝	20,006.00	5.大型機械燃料、修理費	21,358.00
6.借地借家料	85,006.00	6.丘地道路補修費	7,629.00
7.利息収入	19,257.00	7.施設、不動産維持管理費	12,536.00
8.その他(行事収入)	10,761.00	8.助成金(下部組織へ)	7,583.00
		9.教師謝金	18,494.00
		10.会運営費	38,450.00
		11.その他(年中行事支出)	4,603.00
		12.次期繰越金	104,214.00
合計	394,706.00	合計	394,706.00

換算レート：US\$1=現地通貨 R\$1.20 (98年 12月 31日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1994	1995	1996	1997	1998
予算額		240,825.00	329,486.00	298,437.00	320,307.00
支出額(実績)	107,229.00	217,595.00	248,324.00	295,732.00	290,492.00

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・年中行事（新年会、成人式、カーニバル、入植祭、運動会、盆踊り、敬老会、クリスマス、紅白歌合戦、先亡者供養） ・自治活動（毎月グアタバラ新聞の発行、回覧、冠婚葬祭、郵便、コピーサービス、保険、通学バスの集金） ・移住地の管理（所有不動産1,500haの余剰地、80ロッテの市街地、グラウンド、公民館、道路、堤防） ・日本語学校の経営、野球、ゲートボールへの助成、35年史の編集 ・地域振興、市街地造成、農事部活動を通じて活性化を図る。治安

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：親睦交流

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
年中行事 入植祭、運動会	地域のイベントとして定着させる。	創意工夫をする。	市役所の後援を得る。

2) 分野名：文化教育

日本語学校	生徒数の減少	教育内容の向上	移住地外の生徒を集める。
-------	--------	---------	--------------

3) 分野名：産業振興

地域の活性化	出稼ぎ、サトウキビ栽培	新しい仕事を作り出す。	グループ化 消費者への直売
--------	-------------	-------------	------------------

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
道路の維持管理 市街地の発展	等高線栽培の普及 仕事を増やし町を大きくする	推進グループを育てる。 アスファルト、公園作り

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

なし

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	なし
地方自治体との関係	市街地管理は市役所に移管した。下水工事中。 市役所と協力関係を保つ。
地域住民・民間団体との関係	イベントへの地域住民の参加と一体化を図る。

(3) JICAへの要望・期待

日系社会ボランティアの派遣。 市街地造成への援助。

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	モンテ・アレグレ日伯文化協会					
	(欧文) Associacao Cultural Nipo Brasileira de Monte Alegre					
設立目的	1) 日伯人相互の親和を助長し、文化的・経済的交流を図る。 2) 会員及びその子弟の知育体育の向上に尽くす。 3) アマソンの真の姿を国の内外に紹介、普及に尽くす。 4) 会員の子弟教育の改善を図り、日伯間の文化交流に資する。					
設立年月日	1980年 4月 20日		法人格取得年月日	1980年 8月 7日		
代表者	職名	会長		任期	98年 1月～99年12月	
	氏名(和文)	加藤 和明				
	// (欧文)	Kazuaki Kato				
役員構成	会長1名、副会長1名、会計理事1名、理事2名、幹事長1名、監事2名					
本部所在地	Rodovia PA 423, Km 01, Cidade Alta, Monte Alegre, PA, 68220-000, Brasil					
連絡先	郵便物宛先	Rodovia PA 423, Km 01, Cidade Alta, Monte Alegre, PA, 68220-000, Brasil				
	電話番号	091-533-1241	(団体)・個人宅[]			
	FAX番号	091-533-1241	(団体)・個人宅[]			
	E-mailアドレス	(団体)・個人宅[]				
会員数	個人会員	30世帯 142名		地域内日系家庭全体に対する加入率: 約 71%		
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		21人(70%)	8人(27%)	人(%)	人(%)	1人(3%)
法人、団体会員	法人(団体) 主な法人(団体)名:					
会員資格等	会員資格	・地域内に居住する自然人、法人、団体。				
	会費	年間 100米ドル相当額(換算レート: US\$1=現地通貨R\$ 1.20)				
	会員の特典	特になし				
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等)					
	日本語、及びポルトガル語					
定期出版物	・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等)					
	日本語、及びポルトガル語					
定期出版物	タイトル					
	発行部数					
	言語					
	価格(有料の場合)					

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
		総務部(庶務・会計担当)	1
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	日本語学校	1	
	農業部(植物見本園・農事試験・各種苗栽培)	1	1
	機械部(ブルドーザ1台・パワーシャベル1台)	1	1

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
青年部	青年相互の親睦を図り、会の運営に協力する。	15
婦人部	婦人の親睦を図り、会の運営に協力する。	22

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
事務所	常駐職員がおり、業務遂行のために利用。
交流会館	会の行事に応じて利用。
運動場	常時開放。
日本語学校	週日の日本語授業に利用。
植物見本園	常時職員が管理。
樹木作物試験場	各種作物の試験結果を定期的に発表。

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年 1月 1日～97年 12月 31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
1) 会費収入	1,400.00	1) 事務局勘定	11,746.47
2) その他事業収入	1,166.20	2) 農事機械部勘定	15,753.68
3) 農業生産物売上収入	18,209.70	3) 機械部準備金繰入	28,660.59
4) 機械貸貸収入	28,400.00	4) 農業研究グループ支出	
5) 繰越修正益	6,984.84	整地作業費	120.00
6) 農業研究グループ収入		苗購入費	460.00
JICA助成金	2,468.04	植付・施肥作業費	180.00
協会負担	34.96	支柱購入費	890.00
		支柱立て作業費	223.00
		肥料購入費	350.00
		庇護樹購入費	280.00
合計	58,663.74	合計	58,663.74

換算レート：US\$1＝現地通貨R\$ 1.00 (97年12月31日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	6,000.00	9,500.00	12,500.00	15,500.00	25,500.00
支出額(実績)	6,658.60	9,489.64	13,800.17	16,153.96	27,500.15

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・自治活動（域内行事、対外交渉、JICA助成金関連） ・日本語学校運営 ・農業部（植物見本園維持管理、樹木・果樹（試験栽培・苗販売）、農事講習会開催） ・機械部（移住地内の農地造成、第三者に対する賃貸） ・その他住民生活に必要な便宜供与
--

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：農業振興

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の継続（胡椒を主とした、他に短期作・野菜との組合せ、他に牧畜（肉牛）） 	<ul style="list-style-type: none"> ・胡椒は病気等の理由により栽培寿命が短くなってきている。他、価格の安定化が望めない。 ・短期作としての雑穀・野菜は市場が不安定である。 ・経済的不安定から農業離れ、後継者不足が起きている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村興し事業の一環としてカシュー栽培に着目、栽培先進地から専門家を招き、更にJICAの協力を得て、栽培地での研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カシュー栽培における当初の目標を200町歩として、ジュースナッツの加工工場の建設、将来的には地域産業として1,000町歩まで拡大、総合的な輸出産業を目指す。

2) 分野名：域内親睦

<ul style="list-style-type: none"> ・年中行事として運動会、新年会、忘年会等を実施。他に農事研究会を随時に開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交替期に当たっている現在、若い世代にも理解できる言語を用いた集会にする。 ・若い世代が興味を持つ行事が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を中心としたダンスパーティを定期的で開催。その利益を持ってプール建設資金の一助となるよう、若い世代の理解を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日系社会における親睦の強化と相互理解を深める。
--	---	---	--

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
特になし		

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

特になし

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・環境庁より当地域の植物見本園の管理維持に対し、補助金を得た。 ・農務省を通じて要請のある各種農事講習会に対し、積極的に当協会施設を提供、実現に努めている。
地方自治体との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・協会主催の行事に頻繁に市長が来訪する。 ・市役所と密接な友好関係を維持しており、街路樹に対する苗の提供、道路整備のための道路補修機材の貸与を行っている。 ・州農務局及び、農事改良普及局との随時の情報交換、各種農事講習会に対する当協会施設の提供を行っている。
地域住民・民間団体との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・アマソニア日伯援護協会派遣の下に行われる巡回診療に、丸一日を地域住民を対象として診療を行っている。 ・モンテアレグレ農協始め、連邦移住地内に散在する農事栽培者協会との随時の情報交換、各種農事講習会に対する当協会施設を使用しての開催、実現に努めている。 ・州立高校農業科生徒数名を常時研修生として受入れている。

(3) JICAへの要望・期待

・日本における景気の後退から、出稼ぎに行っていた人達が徐々に帰ってきており、この数は今後益々増えるであろう。さて、彼らにとって最も経験のある農業に戻るにあたって土地は既に再生林となっており、当協会所有のブルドーザにての農地造成を期待されているのであるが、当協会のブルドーザは15年以上も昔にJICAより貸与を受け、その後譲渡されて以来、移住地の発展に大活躍し、以後現在に至るまで大事に扱い修理に次ぐ部品の交換の繰り返しで、エンジン部も既に2回開け、老朽化している現状である。ついては、出稼ぎから戻ってこられた方達の新たなる決意に賛同し、新農地造成の速やかなる実現に寄与すべく、何卒JICAよりの新ブルドーザのご援助を切望する次第である。



モンテ・アレグレ日伯文化協会会館

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	アマゾンニア日伯援護協会				
	(欧文) Beneficencia Nipo-Brasileira da Amazonia				
設立目的	国籍・宗教・人種の差別なく、物心両面の援助を必要とする人々に対し、福祉事業を行う。 困窮者には医療その他無料による援助を行う。				
設立年月日	1965年 1月 26日		法人格取得年月日	1965年 5月 15日	
代表者	職名	会長		任期	97年 3月～99年 2月
	氏名(和文)	石原 市太郎			
	// (欧文)	Ichitaro Ishihara			
役員構成	[理事会] 会長 1名、副会長 2名、専任理事 2名、会計理事 2名、理事 8名 [監事会] 監事 3名				
本部所在地	Trav. 9 de Janeiro, 1267, Belem, Para, 66060-370, Brasil				
連絡先	郵便物宛先	Trav. 9 de Janeiro, 1267, Belem, Para, 66060-370, Brasil			
	電話番号	091-249-7688	(団体) 個人宅[])		
	FAX番号	091-229-8311	(団体) 個人宅[])		
	E-mailアドレス	benama@zaz.com.br		(団体) 個人宅[])	
会員数	個人会員	1804世帯5587名 地域内日系家庭全体に対する加入率：約95%			
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降
		814人(45%)	990人(55%)	___人(___%)	___人(___%)
法人、団体会員	___法人(団体) 主な法人(団体)名：				
会員資格等	会員資格	・国籍・宗教・人種の差別なく、本会の目的に賛同し協力することを希望し理事会が会員と認めた自然人 ・ ・			
	会費	年間 42米ドル相当額(換算レート：US\$1=現地通貨R\$ 1.20)			
	会員の特典	特になし			
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等) 総会(日伯両語) 理事会(日本語) 監事会(伯語)				
	・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等) 日伯両語				
定期出版物	タイトル	援協便り		"BOLETIM INFORMATIVO"	
	発行部数	800		1,200	
	言語	日本語		伯語	
	価格(有料の場合)				

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	事務局長	1	
	総務部(庶務課・人事課・財務会計課・広報課)	11	
	健康保険制度(アマゾン・サウーデ)	2	
	医療費相互援助制度	2	
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	アマゾン病院	181	
	十字路アマゾン病院	17	
	第2トメアスー診療所	1	
	福祉部:福祉診療所	5	
福祉部:厚生ホーム(福祉部長がホーム長兼務)	11		
合計			231

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
財務委員会	歳入歳出等財務管理に係る業務	5
広報委員会	広報方針検討および実施に係る業務	8
福祉厚生ホーム委員会	福祉およびホーム運営に係る業務	7
医療費相互援助制度委員会	基金運営に係る業務	4
アマゾン病院運営委員会	病院運営に係る業務	11
トメアスーアマゾン病院運営委員会	病院運営に係る業務	4
アマゾン病院新病棟建設推進委員会	新病棟建設推進に係る業務	9
地方委員会	地方代表委員との調整に係る業務	5
*上記の理事会に属する委員会の外、各機関の長、部課長により必要に応じ会議が開催される		

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
福祉厚生ホーム	収容人員20名のところ19床利用。通所者3名
福祉診療所	月～金曜日:午前中診療、平均20名を診察。土曜日は再診のみ受付
アマゾン病院	月平均外来診察3,200名。病床稼働率80%
十字路アマゾン病院	月平均外来診察420名。病床稼働率25%
第2トメアスー診療所	受診者激減のため採算性も考慮し、十字路アマゾン病院において対応している

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年_1月_1日～ 97年_12月_31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
1) 前期繰越金	718,318.36	1) 本部	
2) 本部		人件費	179,271.56
会費収入	80,787.41	事務管理費	202,328.16
寄付金	7,433.85	銀行手数料	3,253.17
JICA業務委託費	63,816.50	医師看護婦育成助成費	13,111.11
JICA育英助成金	13,845.79	備品購入費	674.63
利息収入	109,249.69	車輛購入費	21,666.67
その他の収入	366,711.58	土地購入費	47,318.10
病棟建設基金取崩し	47,318.10	2) アマソニア病院	0.00
3) アマソニア病院		人件費	1,126,375.47
JICA機材購入助成金	138,034.67	事務管理費	631,292.23
検査料収入	487,495.91	医薬品購入費	725,547.01
診察料収入	117,664.49	その他の経費	988,879.56
病床料収入	779,160.65	備品購入費	68,330.44
医薬品売上収入	1,551,803.73	医療機材購入費	177,313.95
その他の収入	892,407.64	3) 十字路病院	0.00
4) 十字路病院		人件費	192,575.60
JICA業務委託費	46,211.95	事務管理費	87,467.23
利息収入	15,625.94	医薬品購入費	36,541.79
診察料収入	54,860.84	その他の経費	23,231.29
病床料収入	29,101.58	備品購入費	6,170.46
医薬品売上収入	58,748.26	医療機材購入費	811.11
その他の収入	126,249.77	4) 巡回診療業務	0.00
5) 巡回診療業務		旅費	12,827.22
JICA業務委託費	15,488.62	医薬品購入費	6,225.31
巡回診療事業収入	29,833.33	検査機材管理維持費	1,348.89
6) 社会福祉業務		医療費	35,298.10
邦人保護謝金	22,001.26	5) 社会福祉業務	0.00
一般寄付金収入	770.05	人件費	70,897.31
福祉事業収入	109,907.41	事務管理費	26,262.21
その他の収入	2,297.91	医療生活保護費	446,884.93
7) 厚生ホーム		老人福祉費	19,001.57
入居料収入	64,394.83	福祉車輛購入費	30,555.56
リハビリセンター収入	28,133.41	福祉診療所建設費	22,164.39
一般寄付金収入	19,005.82	6) 厚生ホーム	0.00
賛助会費収入	31,654.07	人件費	62,018.98
バザー売上利益収入	21,443.18	事務管理費	73,800.72
神内福祉基金利息収入	25,925.93	厨房給食費	22,192.88
その他の収入	7,339.44	医療費	9,783.87
8) 会員医療保険	1,030,824.79	農園管理費	2,806.99
9) アマソニア医療保険	586,509.61	その他の経費	5,236.61
		備品購入費	5,370.32
		7) 会員医療保険	826,788.10
		8) アマソニア医療保険	530,098.11
		9) 次期繰越金	958,654.74
合計	7,700,376.38	合計	7,700,376.38

換算レート: US\$1=現地通貨 R\$ 1.08 (年 月 日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額		3,144,179.00	4,824,202.00	6,487,068.00	8,400,423.00
支出額(実績)		2,781,810.00	5,814,550.00	6,141,511.00	6,741,721.00

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・病院経営 ・日系高齢者福祉(毎月1回「ことぶき教室」開催、家庭訪問による相談、高齢者特別診療券の交付) ・JICA助成金関連事業(医療業務受託、医師看護婦育成、巡回診療業務) ・福祉事業(福祉診療所の運営、厚生ホーム運営、現地困窮者救済と無料診療業務) ・健康保険制度の運営
--

(2) 重点分野への取組(重要度が高い順に記載)

1) 分野名: 医療衛生

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・新病棟建設 ・新病棟医療機材 	<ul style="list-style-type: none"> ・病床120床規模の病院にする ・新病棟に設備する医療機材の購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設費総額約400万ドルの外医療機材の購入費が見込まれるが、現在建設基金として約80万ドルを積立てている 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設資金はもとより医療機材の購入資金の目途がたたないので、日本国政府、あるいは日本国内における篤志家に援助を要請したい

2) 分野名: 福祉

<ul style="list-style-type: none"> ・デイケアセンターの建設 		<ul style="list-style-type: none"> ・建設企画立案中 	<ul style="list-style-type: none"> ・所要資金の確保
--	--	--	--

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・援護協会自主運営基盤の確立 ・定款改正により立候補が妨げられた4会員(医師)の既得権復権問題 ・医師との労使関係問題 ・慈善福祉団体の資格条件について政府の新しい法令の対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部門の利潤(増収)を高めるため、部門別運営原価分析を行う ・4会員が復権要求を行い第1審第2審とも勝訴した。連邦裁判所に対し控訴手続き中 ・医師団の法人組織化につき医師に対し要請中 ・アマゾン病院において国家保健統一機構(SUS)が要請している60%の部分をもどの部門で消化するか検討交渉中 	<ul style="list-style-type: none"> ・援護協会運営上最大の資金源であるアマゾン病院を120床規模にする ・連邦最高裁判所の判決を待ち、これを踏まえ今後の援護協会運営改革の方向性を見いだす ・労働裁判所等官憲に対し公的見解の要求を行い、それに基づき必要な対策を講ずる ・全部門について60%開放義務が課された場合、対応が不可能なので慈善福祉団体の認可を返上の可能性もある

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

なし

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

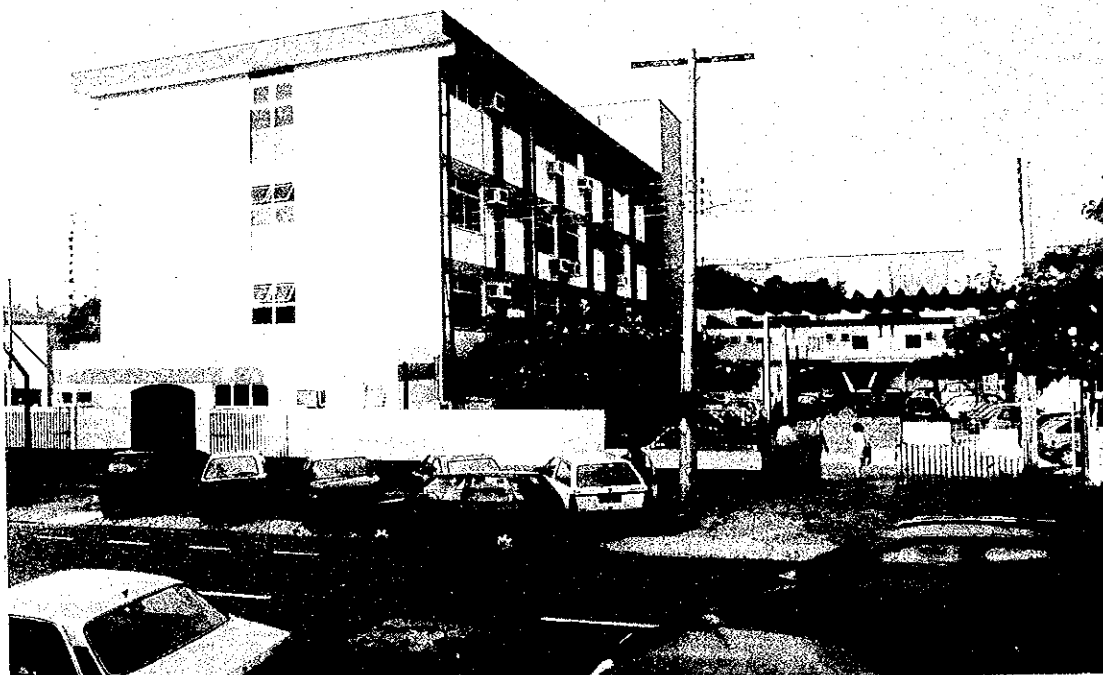
中央政府との関係	<ul style="list-style-type: none">・慈善福祉団体として認可を得ており社会保険料雇用主負担分の免除・公益団体として認可を得ており法人税の免除
地方自治体との関係	<ul style="list-style-type: none">・パラ州政府から公益団体として認可を得ている・ベレーン市役所、トメアスー郡およびアナニンデウア郡から公益団体として認可を得ている・ベレーン市内の貧困者集団地において無料診療を実施している
地域住民・民間団体との関係	

(3) JICAへの要望・期待

- ・アマゾン移住70周年記念事業として新病棟（7階建て）の建設を計画しているが、同病棟に設置する医療機材の供与を要望したい。
- ・医療業務委託費の単価アップまたは増額
- ・巡回診療業務費の単価アップまたは増額



福祉厚生ホーム



アマゾンア病院

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	汎アマゾンニア日伯協会					
	(欧文) Assoc. Pan Amazonia Nipo-Brasileira					
設立目的	1. 会員相互の親睦 2. 会員の社会的、経済的向上並びに地域社会への貢献 3. 日本語及び日本文化の普及を図る。					
設立年月日	1958 年 7月 13日		法人格取得年月日	1960年 1月 24日		
代表者	職名	会長		任期	97年 2月～ 99年 1月	
	氏名(和文)	清水 征彦				
	// (欧文)	Masakazu Shimizu				
役員構成	会長 1名、副会長 5名、財務 2名、常任理事 2名、理事 5名、事務局長 1名、 次長 1名、監査 3名					
本部所在地	Trav. 14 de Abril 1128, Belem, PA, 66060-460, Brasil					
連絡先	郵便物宛先	Trav. 14 de Abril 1128, Belem, PA, 66060-460, Brasil				
	電話番号	091-229-4435/9082		Ⓢ 団体・個人宅[]		
	FAX番号	091-229-4133		Ⓢ 団体・個人宅[]		
	E-mailアドレス	apanb@amazon.com.br		Ⓢ 団体・個人宅[]		
会員数	個人会員	800世帯 名		地域内日系家庭全体に対する加入率：約 80 %		
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		人(90%)	人(10%)	人()%	人()%	人()%
法人、団体会員	7 法人(団体) 主な法人(団体)名：					
会員資格等	会員資格	・ 域内居住の日系人 ・ ・ ・				
	会費	年間 8.5 米ドル相当額(換算レート：US\$1=現地通貨 RS\$1.20)				
	会員の特典	会館施設利用の30%割引、会報配布、各種案内物、情報提供				
使用言語	・ 総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等) 日本語・ポルトガル語両方、理事会はポルトガル語					
	・ 団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等) 日本語・ポルトガル語両方					
定期出版物	タイトル	パンアマゾンニア				
	発行部数	1,000部				
	言語	日本語・ポルトガル語両方				
	価格(有料の場合)	—				

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	事務局		6
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	講堂	4	

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
プロ日系(青年部)	ベレン市内二、三世を中心に地方からの青年達をまとめ、スポーツ交流等を通じて親睦を深める。	30
情報センター委員会	コンピュータを利用しての情報銀行の設立。1999年より活動開始。	10
教育委員会	日本語教育に関する指導。	10
70周年誌編集委員会	60年誌を日本語で作成したので、今回はポルトガル語で作成	10
会報委員会	会報パンアマゾニアの発行。	5
防犯委員会	州保安局と連携を取り、農村犯罪、日系人を対象とする各種犯罪への対策。	5
文化センター委員会	当協会文化交流センター運営に関する小委員会。	10

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
講堂	年間100回を超す利用。
日本語教室	週3回の授業を行ってきたが、98年をもって一時閉校とする。

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997 年度取支計算書 (97年 1月 1日～ 97年 12月 31日) (US\$)

歳入の部		歳出の部	
本部	74,400.52	本部	78,680.75
文化センター	85,784.22	文化センター	90,875.88
日語講座	11,914.77	日語講座	13,283.49
祝賀祭典	54,172.53	祝賀祭典	40,071.78
会報	4,971.17	会報	4,286.89
図書	1,268.33	図書	931.05
学生寮 (売却)	14,704.43	学生寮 (売却)	532.62
記念誌	1,677.58	記念誌	918.33
日語弁論大会	720.00	日語弁論大会	956.85
日語能力試験	1,733.33	日語能力試験	1,168.32
プロ日系	8,793.88	プロ日系	9,330.43
文化普及	0.00	文化普及	252.78
防犯対策	265.00	防犯対策	2,177.04
植林	3,777.18	植林	7,074.53
教育	11,041.67	教育	7,609.32
日語普及	38,518.52	日語普及	38,518.52
合計	313,743.13	合計	296,668.58

換算レート: US\$1=現地通貨 RS\$1.20 (97年 12月 日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	233,600.00	187,940.00	224,170.41	235,905.35	290,567.85
支出額 (実績)	59,543.69	206,765.81	275,590.36	242,153.46	296,668.58

※1993、1994年はインフレにより計算不可能

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、文化活動 ・日本語教育 ・防犯対策 ・対外交渉 ・日系人間の親睦交流
--

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：教育文化

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・日本週間の開催 ・日系子弟の南伯研修旅行 ・日系研修員の募集・選考 ・日語弁論大会、能力試験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムがマンネリ化 ・予算不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会を設置し、外部からもメンバーになってもらっている。 ・個人負担での参加となっており、限られた人しか参加できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規模を大きくするか、小さくするか、検討中 ・経費の一部負担を当協会が行い、各人に参加のチャンス。

2) 分野名：域内親睦

新年会、スポーツ大会、追悼法要、カラオケ大会等を実施	年々参加者が減少 「出稼ぎ者 若い世代の不参加」等	時代に合った企画を考える必要がある	日系社会における連帯の強化
----------------------------	---------------------------------	-------------------	---------------

3) 分野名：産業振興

植林普及事業	コロニアが一体となって取り組まなければならない	2年間ほど活動し、現在休止の間、多少の成果はあげた	時期を待つ状況
--------	-------------------------	---------------------------	---------

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

なし

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	個人レベルでの交流あり。
地方自治体との関係	州の文化庁と友好関係にあり、「日本週間」を毎年同文化庁の後援のもと、実施している。 この他、保安局とのつながりも強い。
地域住民・民間団体との関係	当協会の施設を利用していただいている。 年間4万人程度が出入りしている。

(3) JICAへの要望・期待

経済不況で日系コロニアも沈滞化している。
農業プロジェクトでも、できれば日系コロニアの活性化へ結びつくようなものを望みたい。

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	西部アマゾン日伯協会					
	(欧文) Assoc. Nipo-Brasileira da Amazonia Ocidental					
設立目的	1.日伯両国人の相互の親睦と文化の交流を図り、日伯親善の促進に努める。 2.会員相互の親睦と融和を図る。 3.会員家族の健康と福祉の向上を図る。 4.子弟の教育普及に努め健全で優れた後継者の育成並びに会員家族の体育の向上を図る。					
設立年月日	1980年 5月 1日		法人格取得年月日		1980年 8月 31日	
代表者	職名	会長		任期	98年 1月～ 99年 12月	
	氏名(和文)	村山 惟元				
	〃(欧文)	Koremoto Murayama				
役員構成	会長 1名、副会長 3名、理事 14名、事務局長 1名、日本語学校長 1名(理事兼任)、 代表監事 1名、監事 2名					
本部所在地	Rua Terezina 95, Adrianopolis, Manaus, AM, 69057-070, Brasil					
連絡先	郵便物宛先	Rua Terezina 95, Adrianopolis, Manuaus AM, 69057-070, Brasil				
	電話番号	092-234-7185		(団体・個人宅[])		
	FAX番号	092-232-3694		(団体・個人宅[])		
	E-mailアドレス	nippaku@netium.com.br		(団体・個人宅[])		
会員数	個人会員	500 世帯 2,000 名		地域内日系家庭全体に対する加入率: 約 98 %		
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		不明	不明	不明	不明	不明
法人、団体会員	12 法人(団体) 主な法人(団体)名: Moto Honda da Amazonia Ltda.					
会員資格等	会員資格	・日系人(一世、二世、非日系人) ・地域内居住者(アマソナス・アクレ・ロンドニア・ロライマ州)				
	会費	年間 25 米ドル相当額(換算レート: US\$1=現地通貨 RS\$1.20)				
	会員の特典	歯科診療所の診療代割引				
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等)					
	日本語					
定期出版物	・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等)					
	日本語、ポルトガル語					
定期出版物	タイトル	協会の動き(現在休刊中次年度より再刊予定)				
	発行部数	250				
	言語	日本語(一部ポルトガル語)				
	価格(有料の場合)	(会員、特別会員へ配付)				

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	総務部	1	1
	経理部	2	
	教育部	1	
	文化・体育部	—	
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	歯科診療所	2	1
	日本語学校	10	
	老人ホーム憩いの園	1	2

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
移住70周年祭典委員会	アマゾン日本人移住70周年記念祭典行事、事業の遂行(1999年度)	
70周年記念誌編輯委員会	70周年記念誌編輯と発行(1999年度)	
	*70周年の両委員会は事業終了とともに解散する	

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
歯科診療所	日系歯科医(女性)2名 月曜から金曜まで常勤 7:00~17:00
日本語学校	昼間部 水・土曜授業 日系子弟約30名/夜間部(日本語講座) 成人伯人対象 月・水曜授業
会館	申込受付により常時開放 冷房完備
運動場	運動会、盆踊り、スポーツ大会
憩いの園	現在入居者なし 土/日曜に一般会員へ開放 各種懇親会場として使用中
貸事務室	公文式授業の教室の他、部屋を貸事務所として賃貸中
アパート	2LDK 2部屋
宿泊室	遠隔地よりの来訪者用2室 長期滞在勤務者の個室
会議室	収容人数50名 冷房完備
カラオケ室	申込受付により開放

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997 年度収支計算書 (97年 1月 1日～ 97年 12月 31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
1.会費収入	2,711.67	1 事務局経費	
2.寄付金		1.人件費	47,756.79
1)寄付金	7,020.83	2.経費	
2)助成金		1)交通運搬費	2,386.25
JICA委託業務費	19,794.36	2)通信費	1,740.38
医師看護婦育成助成	3,109.52	3)水光熱費	22,389.98
教師謝金	4,687.81	4)事務経費	2,785.67
教材教具購入助成金	578.69	5)会館ガードマン経費	1,948.98
日語教師合同研修会助成	951.33	6)寄付、負担金	3,041.67
国際交流基金助成金	2,910.60	7)接待費	1,173.69
3.事業部収入		8)修繕費	23,784.61
1)歯科診療所	3,381.18	9)租税公課	23,045.28
2)教育部		10)支払保険料	649.21
a.日本語学校	13,991.67	11)旅費	10,968.14
b.日本語学校	25,925.00	12)印刷物費	1,750.00
c.教材利用料	2,550.00	13)その他	2,471.38
d.その他	41.67	2 事業部経費	
4.施設使用料		1)巡回診療	2,955.47
1)学生寮	3,366.67	2)診療所経費	505.69
2)部屋、サロン利用料	25,511.83	3)教育部経費	
3)憩いの園利用料	16,193.57	a.日本語学校教師謝金	12,737.50
5.雑収入	567.72	b.日本語講座講師謝金	13,737.50
6.利息収入	60,724.77	c.日本語学校経費	2,168.17
7.赤字補填 (運営基金より)	61,797.28	d.日本語講座経費	4,296.89
		4)文化部経費	3,233.09
		5)体育部経費	804.17
		6)業務委託費 (助成金支払)	12,237.94
		7)憩いの園経費	57,247.72
合計	255,816.17	合計	255,816.17

換算レート：US\$1=現地通貨 RS\$1.20 (98年 11月 15日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	150,271.07	118,908.33	179,461.63	316,655.24	255,816.17
支出額 (実績)	113,874.87	115,278.29	168,321.12	351,016.03	255,816.17

※1993年度は激しいインフレのため換算不可能

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力事業団委託業務 ・日本語学校の運営 ・歯科診療所の運営 ・地域内活動、他団体との共催行事 ・州外日系団体（アクレ・ロライマ・ロンドンニア州）への便宜供与

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：日本語教育

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
日本語学校の運営	若手教師の不足	高・大卒の日本語のわかる 青年男女の募集 日系社会青年ボランティア の派遣	日本語教育の活性化 会話中心教育の必要性
日本語教師研修会	指導方法の確立 二世教師	年1回の研修会開催	

2) 分野名：域内親睦

スポーツ大会 娯楽大会 新年会	愛好者のみの集まり 若年層の参加が少ない	ソフトボール大会、サッカー大会 月1回の愛好者の集い 文書連絡	州外日系団体の招へいによる各種スポーツ大会 大会の開催を外角団体との共催行事とする
-----------------------	-------------------------	---------------------------------------	--

3) 分野名：

--	--	--	--

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
老人ホーム憩いの園	現在老人入居者なし 土・日曜を有料で一般会員に開放し 経営中	大部屋を個室に改装する

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

特になし

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	特になし
地方自治体との関係	マナウス市条例に基づく日本週間（11月5日より1週間）の諸行事のうち、日本週間開会宣言を日伯修好100周年記念碑前で知事、市長の参加で実施する
地域住民・民間団体との関係	アマソナス日系商工会議所、マナウス日本文化振興会、マナウス・カントリークラブ、ベラ・ピスタ移住地、エフィジェニオ・サーレス移住地の諸行事への参加

(3) JICAへの要望・期待

--



正面入口より日伯協会事務所



老人ホーム憩いの園

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	(和文) トメアスー農村振興協会					
	(欧文) Assoc. Fomento Agricola de Tome-Acu					
設立目的	日系人とその居住地域社会発展を図るため次の事業を行う。①農業構造改善事業。②営農技術の改善、合理化と普及、その関連調査研究と情報交換。③農業機械の利用。					
設立年月日	1981年 8月 7日		法人格取得年月日	1981年 8月 7日		
代表者	職名	会長		任期	98年 1月～ 99年 12月	
	氏名(和文)	新井 範明				
	// (欧文)	Noriaki Arai				
役員構成	顧問・相談役 6名、会長 1名、副会長 2名、専務理事 1名、財務理事 1名、書記理事 1名、業務担当理事 5名、監事長 1名、監事 2名					
本部所在地	Av. Gov. Dionisio Bentes 210, Quatro-Bocas, Tome-Acu, Para, 68682-000, Brasil					
連絡先	郵便物宛先	Caixa Postal 14, Quatro-Bocas, Tome-Acu, PA, 68682-000, Brasil				
	電話番号	091-734-1062/1316	(団体・個人宅[])			
	FAX番号	091-734-1062	(団体・個人宅[])			
	E-mailアドレス	(団体・個人宅[])				
会員数	個人会員	120世帯 _____ 名		地域内日系家庭全体に対する加入率: 約 35 %		
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		97世帯 (81%)	23世帯 (29%)	____人(____%)	____人(____%)	0世帯(0%)
法人、団体会員	5 法人(団体) 主な法人(団体)名: トメアスー総合農業協同組合					
会員資格等	会員資格	・トメアスー郡を中心に隣接するアカラ郡、モジュー郡、アバエテツバ郡に居住する農地所有者または借地者で本会の定款に賛同する理事会が認めたもの ・個人、法人にかかわらず、ブラジル国に居住する農業技術に関する有識者または経験者で本会の目的達成のため協力できるものと理事会が判断したもの。				
	会費	年間 54 米ドル相当額 (換算レート: US\$1=現地通貨 R\$1.20)				
	会員の特典	農村振興協会の所有する会施設利用料、日本語学校授業料など				
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語 (日本語のみ、現地語のみ、両方等)					
	・団体が発行している各種資料 (パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等) 主に日本語					
定期出版物	タイトル					
	発行部数					
	言語					
	価格(有料の場合)					

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
		事務局(総務・会計・文書その他各事業部門の総括と文化協会業務兼任)	4
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	重機械・車輛運用部門(農耕地造成、道路修復、環境整備、農作物運搬業務)	4	3
	育苗センター部門(無保菌苗、優良品種苗、奨励作物苗等の育苗と頒布)	3	5
	オガ屑堆肥製造部門(堆肥製造頒布と啓蒙)	0	2
	営農普及部門(JICAの委託業務として種々の資料作成、講演講習会の開催、学術調査団及び取材班への資料並びに便宜供与、その他)	2	0
	木工加工事業(廃材加工の木工製品開発作成を目的にしたが、現在一時閉鎖中)	0	0

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
堆肥造成委員会	オガ屑堆肥(土壌改良剤)の啓蒙と成分試験を委託して品質向上に努めている。	2
木工委員会	一時閉鎖中であるが、他団体等からの要望に応じて職工を派遣指導を行っている。現在、管内に廃材活用木工事業と木工職人育成による『村興し』へ理解が深まり所轄官公庁との提携業務として事業再開の気運が上がっている。	6
その他委員会	他団体との関連委員会として植林委員会(文化協会)、道路修復委員会(地元製材所協会)、農事委員会(農協)等。	

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
育苗センター	1998年育苗実績: 胡椒苗 112,000本、パッションフルーツ苗 31,000本、クブアスー苗 31,000本、アサイ苗 7,830本、グラビオラ苗 500本、カカオ苗 12,210本、コーヒー苗 5,800本、パーム椰子苗 37,000本
堆肥製造所	ジュース工場付近の農場(個人)の一角1町歩を借用、1998年度実績約700トン。
重機・車輛格納庫	文化協会の敷地を借用、修理場併設格納庫2棟(8mX20m、10mX12m)あるが、現在収納しきれない状態。
支所	旧JICA第二トメアスー事業所エリアを協会が支所としていたが、現在は本部に統一したため使用していない。アマゾン森林研究会と協同企画中の環境保護センター(仮称)の事務所エリアとしての活用を予定している。
河川敷森林	JICA撤退にあたり譲渡された約1000町歩の河川敷森林地帯を環境保護センターの実証モデル保護林として計画中。
ジュース工場施設	JICA助成にて建築したパッションフルーツ・ジュース工場施設は、トメアスー総合農業協同組合に貸与していたが、現在、譲渡を総会にて決議、今後の発展に期待している。
木工所	倉庫を借用して活動していたが、昨年一時閉鎖。他団体の要望により職工を派遣、指導している。政府の環境問題などの規制が厳しくなり、廃材リサイクル事業として各方面から期待されており、郡や環境団体との提携事業として近日中に再開予定。

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997 年度収支計算書 (97年 1月 1日～ 97年 12月 31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
管理部		管理部門総経費	36,045.00
入会金	93.00	重機・車輛運用部総経費	132,726.00
手数料	4,440.00	育苗センター事業総経費	32,582.00
会費	4,171.00	営農普及事業総経費	21,709.00
銀行受取利息	664.00	木工事業総経費	8,595.00
賃貸料(ジュース工場)	3,771.00	環境・道路整備協力事業	5,323.00
財産処分	18,433.00	1997年度原価償却	157,044.00
雑収入	7,089.00	次年度繰越金	7,817.00
重機運用部			
重機使用料	94,777.00		
車輛使用料	58,922.00		
砂利運搬	14,419.00		
雑収入	1,883.00		
育苗センター			
苗配布代	23,592.00		
雑収入	10,933.00		
木工加工部門			
製品頒布代	3,285.00		
雑収入	59.00		
助成金(JICA)			
業務委託費	18,229.00		
木工事業施設費	3,829.00		
道路修復用重機購入費	133,252.00		
合計	401,841.00	合計	401,841.00

換算レート：US\$1＝現地通貨 R\$1.20 (98年 11月 15日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額		241,200.00	391,450.00	376,654.00	416,765.00
支出額(実績)		239,553.00	384,826.00	369,070.00	394,024.00

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・重機運用部門：農耕地造成、農道・郡道・州道整備、環境整備と農作物運搬その他。 ・育苗センター部門：無保菌胡椒苗・カカオ優良品種苗・各種熱帯果樹苗の育成と配給。 ・ジュース加工工場：農協に賃貸、各種トロピカルジュース製造。 ・営農育成事業：JICA業務委託、講演・講習会の主催・共催、学術調査団及び取材班への資料並びに便宜供与。 ・木工加工事業：一時閉鎖中であるが、職員の派遣と木工技術指導に協力。 ・堆肥造成事業：オガ屑堆肥（低窒素堆肥）、土壌改良剤としての製造頒布及び啓蒙と指導。 ・その他：小規模農業者営農振興事業、ACTA事務局、防犯対策、CEFLAM、CAMTA、COERTA等への協力と業務提携。 <p>*ACTA=トメアスー文化協会 CEFLAM=アマゾン森林文化研究会 CAMTA=トメアスー総合農業協同組合 COERTA=トメアスー農村電化電話組合</p>

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：各事業部門（重機車輛・育苗・堆肥）

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・郡地造成 ・道路修復工事 ・農産物運搬 ・無保菌苗の育苗 ・優良苗の育苗 ・オガ屑堆肥の製造 ・産地形成奨励苗の育苗 	<ul style="list-style-type: none"> ・重機・車輛の維持管理のための運転手の訓練と修理工の育成 ・管理のための格納庫の増設 ・郡道、州道修復の政治的問題の解決 ・利用料金改定が限界と思われるので更新のための減価償却費積立金捻出に苦慮している ・ハイテク技術の育成 ・育苗舎の老朽化と増築 ・堆肥材・チッソ材の確保 ・乾燥堆肥製造設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な技術者の雇用 ・重機販売店主催の技術者養成コースへの参加 ・郡・州道路局と交渉している。 ・ハイテク技術導入のため政府機関との情報交換 ・製材所の廃材やオガ屑等の焼却禁止 ・各農家単位の堆肥製造の奨励 ・産地形成作物としてパーム椰子栽培の奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の派遣を要請して技術者の養成をしたい ・州・郡の請負制で域内道路の徹底修復 ・産地形成による営農の擁立 ・有機農法による集約的多収入営農方式の確立

2) 分野名：営農普及事業

<ul style="list-style-type: none"> ・農事パンフレット作成 ・農事講演講習会の開催 ・視察・研究団・取材班への便宜提供 ・JICA業務委託 ・各団体との業務提携 ・各調査資料の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・営農普及専用車の必要性 ・営農普及専従者の増員 ・他地域の情報不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人車輛借上げ ・在伯専門家招聘・先進地研修生の斡旋 ・農協・文化協会等との業務提携による営農普及活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の種々の資料を集積した管内情報センターの設立
---	--	--	--

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<p>・河川敷所有林の保安全管理問題 ・地域産業興しとしての熱帯果樹ジュース工場の経営安定化と木工事業の再開</p>	<p>・アマゾン森林文化研究会の環境問題研究セミナー設立計画に参加して関係各官庁に永久保護林の認可申請中 ・熱帯果樹ジュース工場経営の安定化を図るために原料増産の啓蒙と優良種苗の育苗と頒布 ・郡や他団体との協同事業として製材所の廃材、植林間伐材等の利用による郷土色豊かな製品を製作すべく木工事業再開を企画</p>	<p>・アマゾンの森林・生物生態や環境問題の研究の場としての環境問題研究センター設立 ・地域産業振興のための地域色を生かした村興しとしてジュース加工場経営の安定と木工事業の再開</p>

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

特になし

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	<p>EMBRAPA-ブラジル農牧公社：農業技術情報交換、土壌成分・堆肥成分検査依頼。 CEPLAC-カカオ院：支所あり。カカオの優良耐病品種導入。病害対策。 INCRA-土地院：土地の登録など。 CEBRAE-中小企業経営指導センター：ジュース工場増設資金融資指導、木工製品展示即売。 IVAMA-森林保護局：環境問題。</p>
地方自治体との関係	<p>郡長、郡役所とは密接な友好関係にあり、郡道・州道の道路修復工事を依頼されたり共同作業を行っている。郡農務局長官として協会の専務が兼務しているため地域農家の営農問題やジュース工場の原料増産など地域農業振興に郡農政と一緒に取り組んでいる。州の道路局の依頼で州道路修復に工事用重機・車輛を動員している。</p>
地域住民・民間団体との関係	<p>地元の製材業者組織と共同で幹線道路修復工事を行っている。地元住民の農地造成、農道整備、防火線作業、砂利運搬などを行っている。銀行の農業融資の使用苗は、当協会の苗が指定されている（農務省認可）。一般にも優良苗の頒布を行っており信用度が高い。地元住民だけでなく政府の各農業関係出先機関（CEPLAC等）とも友好関係にあり情報交換を行っている。</p>

(3) JICAへの要望・期待

<p>当移住地は、南米拓殖会社が計画移住を開始してより70年、一貫して樹木作物による営農を伝統的に守り、将来のアマゾン農業の持続型農業の在り方としてのモデル地区に位置付けられており、多くの学者、研究者が来訪され、それなりの論文を発表している。現在、郡、隣接地方自治体やアマゾン森林文化協会、農協等複数団体との研究課題として取り組んでいる森林保全、植林事業の推進、オガ屑堆肥製造によるリサイクル事業など、地域環境問題関連事業育成に努力している。また、地域農業経済基盤の再建は、農家の努力によりその成果が現れてきた熱帯果樹ジュース加工産業を進展させることに他ならないと考えている。そのためには原料増産が不可欠であり、この問題を含め技術者や専門家の派遣、老朽化した営農用重機の更新などの機材購入資金を切望する。</p>
--